

第 40 回経済学会賞（本行賞）審査講評

第 40 回経済学会賞には 8 本の論文の応募があり、いずれも応募者の学習と研究の成果を示す力作であった。審査委員会は、厳正なる審査の結果、優れた論文として、以下の優秀作 1 本及び佳作 2 本を選出した。

優秀作 1 編

猪田 尚希（経済学部 4 年）

「全市区町村産業連関表および機械学習手法（SHAP 値）によるウェーバー工業立地論の検証」

佳作 2 編

伊藤 弘紀（経済学部 4 年）

「地方の鉄道廃線は地域の人口を減らすのか？」

大野 修平（経済学部 4 年）

「マイナンバーカードの普及に関する実証分析 — 差分の差推定法（DID）を用いた佐賀県西松浦郡有田町における取り組みの分析・評価」

以下、受賞論文にたいしての講評を記す。

優秀作に選ばれた猪田氏の論文は、新たに推計された日本の全市区町村別産業連関表とルート検索としての Google Maps API、機械学習手法である LightGBM (Light Gradient Boosting Machine) および機械学習モデルの説明手法である SHAP を用いて、アルフレッド・ウェーバーの工業立地論を日本の全市区町村の製造業に対して適用した実証研究である。ウェーバー工業立地論では原料輸送費と完成品輸送費、および労働費の状況に即して工業の立地状況が説明されていたが、日本および諸外国では、それらを用いた産業立地分析が地理学や地域経済学において従来から行われてきた。本研究では、それらの先行研究に対して、1) 日本の全ての市区町村について統一的な手法で生産額が推計された全市区町村産業連関表というデータ量、2) ルート検索としての Google Maps API を用いてより精緻に輸送費用を求めることができるというデータの質、3) 機械学習を使った分析手法、という 3 点を新たに付け加えた点で、大きな貢献を果たしたといえる。また、本論文で構築されたモデルは、日本における製造業の立地状況を一定程度説明できるという結果も得た。特に、鉄鋼業等の原料立地、食料品製造業の市場立地状況がモデルの想定通りに明確に示された。本論文は既存研究に対して多くの貢献がなされた力作であり、適切に修正を施せば学術論文として発表することが可能なレベルの内容である。

佳作に選ばれた伊藤氏の論文は、地方鉄道の廃線がその周辺自治体の人口減少にどのような影響を与えるかを検証した論文である。今日の政策課題としてニュースなどでも議論されている重要問題に対して、公的に入手できるデータを用いて、一石を投じる論文である。また、合成統制法という比較的近年に開発された手法を用いていることも、学術的貢献として評価できる。結果も、「鉄道廃線によって人口減少が加速する」という一般的な議論が若年世帯のみに該当するという、興味深いものであった。今後取り組みうる内容として、64歳までの人口に限定されている現段階の分析を、高齢者人口も含めるように拡張してみることが期待される。

佳作に選ばれた大野氏の論文は、「マイナンバーカード申請者に5000円分の商品券を配る」という佐賀県有田町におけるマイナンバーカード普及キャンペーンがマイナンバーカード交付率へ与えた影響の大きさを明らかにする実証研究である。マイナンバーカードの普及は、行政手続きの簡素化やより効率的な行政サービスの提供という点で重要な政策でかつ、現在もマイナポイントの交付を延長してマイナンバーカードの普及が進められているという意味で時宜にかなうテーマでもある。本研究では、令和3年1月時点から令和4年11月末時点までの11ヶ月の期間で、処置群に有田町を対照群にそれ以外の佐賀県の市町村として差分の差の回帰を用いて分析を行った。分析の結果は、本キャンペーンによって有田町のマイナンバーカードの交付率が5.46%分増加したというものであった。本研究の結果は政策的に重要でかつ興味深い。マイナンバーカードの普及によって経済厚生がどのようなメカニズムを通じてどのくらい変化するかを分析できるようになるとさらに良くなるといえる。

以上。

2023年3月1日

第40回経済学会賞（本行賞）審査委員会

審査委員長：松永友有

審査委員：熊野太郎、井田有紀、小川翔吾

第 40 回経済学会賞(本行賞)受賞者メッセージ

猪田 尚希

この度は、40 回にも及ぶ伝統ある本行賞において表彰いただいたこと、大変光栄に思います。

今回の研究は、高校地理の定番であるウェーバー工業立地論という「伝統的な」理論を、ルート検索 API や機械学習といった「新しい」手法でいかに評価し直すかという、いわば「掛け算」を意識した研究でした。今後もこのような「掛け算」を通して新たな価値を生み出せる人間になりたいと思っています。

また、このような、従来の経済学研究にはなかった新しい手法が少しでも多くの人に活用され、よりよい研究成果が生み出されることを願っています。

アイデアの提供やご指導をいただいた居城教授、全市区町村表の推計の際にご教授いただいた法政大学の菅教授や島根県立大学の須原専任講師、その他本研究にご教授・ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

伊藤 弘紀

この度は、横浜経済学会賞(本行賞)の佳作に選出して頂き、大変光栄に思っております。初めての論文執筆にあたり、手探りながらも、様々な視点からの分析・考察を心掛けました。その結果、このような成果を出すことができ、心より嬉しく思います。

私が論文を完成させることができたのは、家族が私の活動に対して理解をしてくれたことや、経済的支援があったからこそでした。また、大変お忙しいながらも休日問わず相談に乗ってくださり、そして親身なアドバイスをしてくださった古川先生のお力添えのおかげでした。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

今後もより一層、勉学に励みながら、実社会の課題解決に向けた取り組みに精進してまいります。

大野 修平

この度は本行賞佳作に選出いただき、大変光栄に思っております。まず、常に的確で手厚いご指導をしてくださった鶴岡先生に心から感謝申し上げます。そして、ゼミの授業以外でも集まり、お互いの卒業論文に関して意見を交わし、練度を高めていったゼミ仲間にも本当に感謝しています。

今後、論文制作時に必要性を痛感した課題発見能力や客観的思考力をさらに磨き、ステップアップしていきたいと考えています。

最後に、コロナ禍での大学生活を支えてくれた家族に感謝します。